

農村青少年クラブによる次世代の育成支援

■ 東讃地区農業後継者クラブ連絡協議会 ■

(東讃農業改良普及センター 湊博之)

●対象の概要

東讃地域の新規就農者は、近年、県外出身者や他産業からの就農などにより、増加傾向となっている。また、新規就農者を始めとする、農村における青少年は、自発的に地域活動に取り組むなど、活動範囲も拡大している。各市町では、農業青年の資質向上や、地域農業の発展を目指す目的で、農村青少年クラブが設立されているが、その活動は、新規就農者などが、早期に地域に溶け込み、経営安定するうえで必要不可欠な存在となっている。

このような中、農業青少年同士のさらなる交流を深め、幅広い視野を持って情報交換などを行う目的から、平成27年5月に東讃管内の複数の農村青少年クラブが集まり、東讃地区農業後継者クラブ連絡協議会(以下「東讃地区連」)を設立した。

表-1 東讃地区連の概要(令和3年3月時点)

クラブ名	会員数(名)
かがわ若志の会	15
国分寺グリーンクラブ	10
FC下笠居	10
クラブ193R	4
新緑会	10
さぬき市後継者クラブ	22
計	71

●課題を取り上げた理由

東讃地区連は、平成27年度から新規就農者や、関係団体との連携による交流推進や、東讃農業改良普及センターとの共催で、地元の農業高校との連携授業を開催するなどの活動を行ってきた。

しかし、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントが自粛されることになり、会員同士の情報交換会などの活動が制限されることとなった。

このような状況において、東讃地区連の活動をさらに継続させることや、新たな取組を行う

など、新規会員の確保につながる魅力ある取組を検討し、実践することが、今年度の重要な課題であると考えられた。

●普及活動の経過

1 役員会の開催

令和2年10月に第1回役員会を開催し、コロナ禍の影響を受けた各種行事について再度検討するとともに、会員間の情報共有を行った。また、石田高校との連携授業について、役割分担や連携授業の発表者の選定などについて検討した。さらに、IFK(香川県農業青年クラブ)と連携して行う「親子農業体験」について、東讃地区連としての活動支援について協議するなど、今年度の事業が円滑に進められるよう、十分に議論を行った。

また、今年度の事業実績や次年度における事業内容の見直しなどの検討のため、令和3年3月に第2回役員会を開催した。

2 石田高校との連携授業

令和2年12月8日に、石田高校において、農業の理解を深めることや、今後の進路の参考にすることを目的に、東讃地区連と東讃農業改良普及センター、石田高校が共催して連携授業を行った。1年生の60名を対象に、農家の一日及び年間を通じた農作業の様子を、会員など10名がパワーポイントで紹介し、その後、作物別のグループに分かれて意見交換を行った。



地区連会員等によるプレゼンテーション

3 農業青年による次世代への活動支援

会員各自が様々な機会を活用し、支援を行っている。農大生には、農業の魅力や就農への意欲を高めてもらうため、講義を行った。また、先輩農業者として、新規就農者に施設や作物を見学してもらい、より実践的な技術経営についてアドバイスをしたり、会員自らの経営について事例発表などの場を設けるなど、情報交流を図った。



事例発表による新規就農者との交流



新規就農者に対する現地見学等の対応

4 親子農業体験の実施

I F Kと連携して小学生とその保護者が参加する「親子農業体験」を令和3年3月に東讃管内で開催し、参加者は東讃地区連会員の施設において栽培された花（キク）の収穫を行った後、フラワーアレンジメントを実施した。その後、東讃地区連の活動や農業の魅力を会員が伝え、自分達が栽培した野菜や米、畜産加工品を参加者に紹介するなどの食育活動を行った。



親子農業体験で農産物をPR

●普及活動の成果

1 組織の活性化に向けて機運醸成

コロナ禍の影響により、停滞気味となっている活動を見直し、新たな活動を検討することで、組織を活性化させる機運が高まった。

特に、東讃地区連の構成員が所属する高松市農業青年クラブでは、新たに新規就農者との交流会を開催し、クラブ員の加入促進を図るなど、各組織で活動が活発化している。

2 農業高校生の就農意欲の醸成と他校への波及

石田高校との連携授業により、農業青年などが農業の魅力や活動について紹介したことから、生徒はより一層、農業の現実を理解し、今後の進路や就農への関心を高めることができた。

また、管内で農業科を持つ高松南高校に対してこれらの活動を紹介したことにより、来年度から連携授業を開催する方向で検討している。

3 農業青年の経営発展とリーダー育成

研修や情報交流などの活動を通じ、東讃地区連の会員の中には、さらなる経営発展を目指して法人化した者や、青年農業者として認定され、地域のリーダーとして活躍している者も増えてきた。

4 農業への理解とPR

I F Kとの連携を図り、親子農業体験を実施したことで、非農家に農業や農産物の魅力をアピールでき、農業や就農への理解につながったことから、今後の新たな活動の展開に結びついていると考えられる。

●今後の普及活動の課題

東讃地区連の会員は、より多くの農村青少年とともに交流し、「地域を元気にしたい」、「新規就農者が早期に地域に溶け込み、経営を安定させるために先輩農家として協力したい」という思いを持っている。

そのため、今後も会員同士の交流を深めることや、新規就農者の加入促進に向けた取組を継続して行い、新規就農者の定着に貢献していくために、新たな取組を展開し、東讃地区連の活動の活性化につなげていく必要がある。